

第十四回山形県詩人会賞

遠藤 敦子 詩集 『禳禱』

(2014年10月20日刊／土曜美術社出版販売)

久野 雅幸 詩集 『帽子の時間』

(2014年4月15日刊／空とぶキリン社)

【選考経過】

平成26年1月から12月まで刊行が確認された詩書は刊行順に、新・日本現代詩文庫『近江正人詩集』、比暮寥詩集『憂感悲唱集』、榊一威詩集『Blent Junction』、大場義宏詩集『ライト・バース集「豆」』、久野雅幸詩集『帽子の時間』、尾崎まりえ詩集『アリスのとき』、斎藤たきち詩集『雷神山ある風景の序章』、佐々木悠二詩集『詩的生活のすすめ』、高沢マキ詩と詩論『さんまのしっぽ 悲しみは清らかなになれる』、遠藤敦子詩集『禳禱(いのり)』の十作品。これらをもとに、三月十四日、第十四回山形県詩人会賞(山形県詩人会主催・会長高橋英司)の選考会が開かれ、近江正人詩集と榊一威詩集は著者が本賞の過去の受賞者であることから選考対象外とし、残る八作品を候補作として検討した。

比暮寥詩集『憂感悲唱集』は、戦死した者たちの鎮魂とこの世の平和への祈願が熱く、深い人間愛に基づいた詩集。尾崎まりえ詩集『アリスのとき』は、自由な時空へと羽ばたき日常に冒険を企てる感性がみずみずしい詩集。佐々木悠二詩集『詩的生活のすすめ』は、いまここにある時間をしなやかに創造してゆくことの大事を、歩み出ることが日常における新たな慄きであることによって示した詩集。高沢マキ詩と詩論『さんまのしっぽ 悲しみは清らかなになれる』は、東日本大震災に対峙して書かれた鎮魂と祈願の詩篇と、夭折した赤塚豊子の生涯に寄り添うように書かれた詩・詩論集。いずれも書き手の個性が発揮されており、独創性豊かな詩書として評価された。

遠藤敦子詩集『禳禱』は、三十年を超える詩作の総決算の書であると同時に、自らの半生と世の事象を祈りを込めて振り返った詩集。「禳」は神を祭り災いを除く意、「禱」は幸福を求めて祈る意。詩集のタイトルに暗示されているように、災いを祓う禳災と祈り願う祈禱に熱く、言葉を綴る営みの切実さがひしひしと伝わってくる詩集である。理不尽なことに対する怒りや弱者への憐みもまた織りこまれ、他者へと向ける温かい眼差しと自己を見つめる視線は厳しく強靱である。

久野雅幸詩集『帽子の時間』は、遠藤敦子詩集『禳禱』の切実で重い思念の世界とは対照的に、斬新で意表を突く発想が豊かな世界を切り拓く詩集。日頃、人間に使用される帽子という存在にスポットライトをあて、思いも寄らぬ内省の世界が湧き出る意外性とその愉楽は、しかし生きて在ることの孤独と悲しみに裏付けられている。また、ウィットとユーモアもまた軽やかなフットワークで醸成され、発見される時間のありようを追い求め紡いでゆくその表現力は卓越している。詩作における新たなアプローチをこの詩集に見て取ることができる。

最後の絞り込みによって遠藤敦子詩集『禳禱』と久野雅幸詩集『帽子の時間』が残ったが、両者に優劣をつけがたく、この二作を本年度の山形県詩人会賞に決定した。(文責：選考委員長 万里小路 譲)

【受賞者略歴】

遠藤敦子…1958年、南陽市生まれ、同在住。詩誌『樹氷』同人。「遅筆堂文庫」学芸員。

久野雅幸…1961年、天童市生まれ、同在住。詩誌『山形詩人』同人。詩集『旋回』(1997年)、詩集『三人の日に』(2003年)。本名…平塚志信。高校教員。